

教育学研究室に入って

小野寺 梓

3月で2年間勤めた病院を思い切って退職し、4月から再び学生になりました。入学式では、高校を卒業仕立ての若さ溢れる1年生が駅から大学へ向かい列を成し、そこにまぎれこんだ私はサークル勧誘の列を避けつつ肩身が狭い思いでした。

5月になると秋冬のセミナーのために、英文講読ゼミを行なうことになり、英語論文をはじめてちゃんと読み、正しい文法の使い方を勉強することがとても大事だと痛感しました。今年はAPACPHも栄養大であるということで、ますますもって英語力が必要とされ切羽詰るものがあります。

ゼミでは、ディスカッションの中で多くの示唆をいただき、また今まで勉強したことがなかったオーラルヒストリーについても勉強できました。

ようやくキャンパスの構造にも慣れてきたこの頃、修士論文作成に向けて頑張ろうと思います。

坂口由紀子

私が橋本先生とはじめてお会いしたのは、修士課程の受験日が間近に差し迫った1月のある日、緊張しながら研究室を訪れた時です。自分と同じくらいの背丈で、素敵なスマイルをした橋本先生を見た瞬間、一気に緊張が緩み自分の置かれている立場のことや、家族のことなど、ずいぶん余計なことまで口走ったように思います。その日、研究室のメンバーの方々が初対面の私に気さくに声を掛け励ましてくれたことも本当に嬉しくて、絶対にこの研究室に入りたいと強く願いました。橋本先生のアドバイスのお陰で研究室のメンバーの一員になれた時は本当に嬉しかったです。仕事をしながらの入学ということもあり、研究室に行くにも制限があるような私を受け入れてくださった先生に心から感謝いたします。

橋本先生はいつもの的確なアドバイスを下さり、必ず最後には「よくやったわよ」と誉めて下さいます。私は研究室に足を運ぶたびに、もっともっとがんばろうという気持ちになります。そんな橋本先生の率いる研究室の先輩方は、みなさん口には出さないけれどもすごく努力していて、過酷な現実に対しても立ち向かっている人たちばかりです。そんな先生のさりげない日々の励ましが、みなさんを後押ししているのではないのでしょうか。研究室のメンバーの一員として、私も努力しようと思います。